

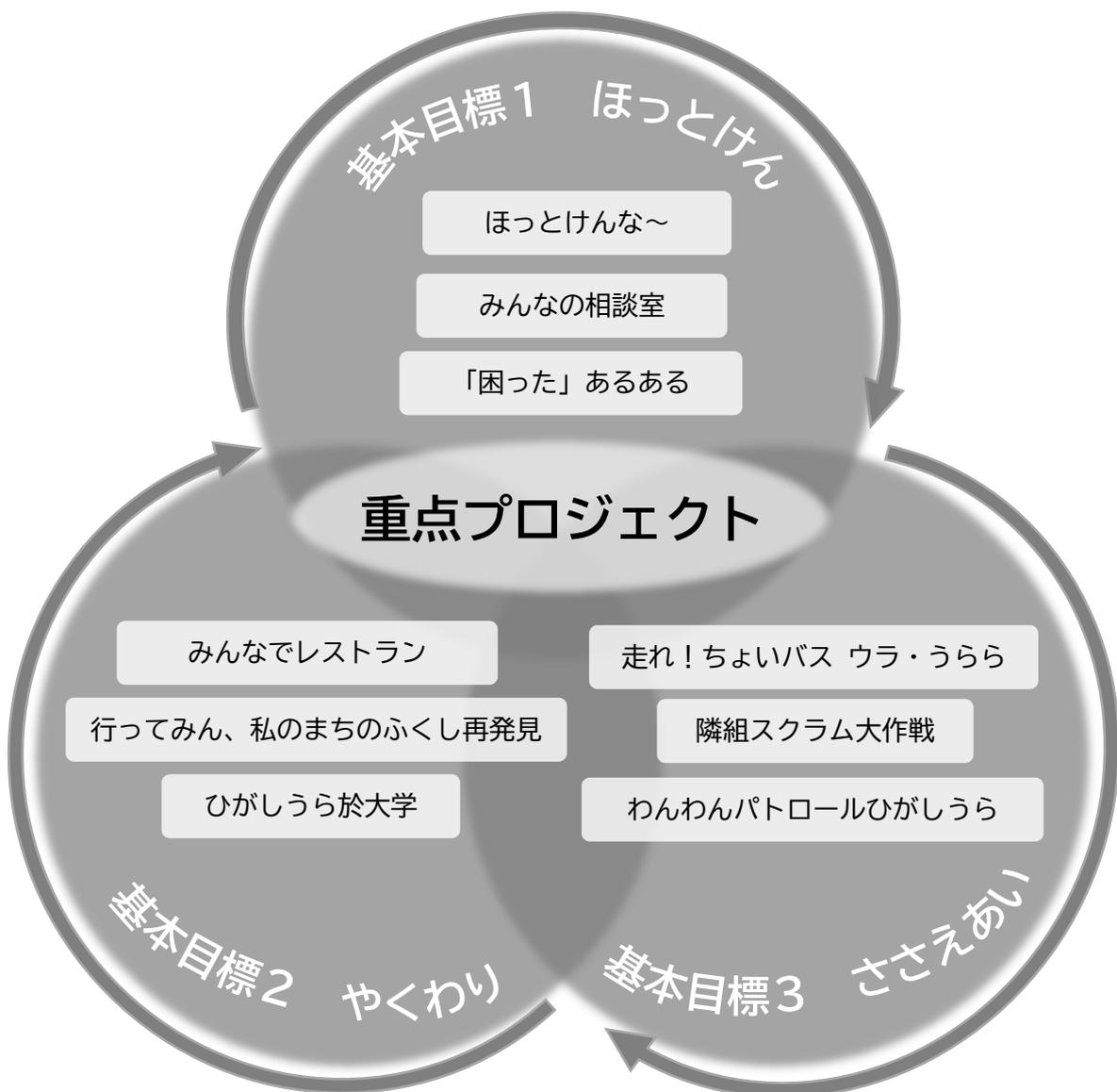
第4章 重点プロジェクト

重点プロジェクトの概要

3つの基本目標を実行するために実現しなければならないことを基本施策として掲げ、その基本施策を具現化するための計9つの重点プロジェクトを、住民のみなさんやボランティア団体、福祉・医療関係者等と行政・社会福祉協議会（以下「社協」という。）で協力して検討してきました。

重点プロジェクトを推進していくためには、住民のみなさんの力が不可欠です。

“「あんき」に暮らせるまち 東浦”の実現に向けて！





ほっとけんな～

相談支援充実のための
相談窓口の拡充

■取組の具体的な内容

- 地域の民生委員・児童委員、地域に所在する法人・事業所だけでなく困りごとを抱えた身近な人を放っておけない人（ほっとけんな～）を増やして、馴染みの関係を活かした相談相手（窓口）となってもらおう。
- 身近なところで気軽に相談できる窓口を増やす。

■プロジェクトが生まれた背景

- アンケート結果では、困ったときの相談相手として「家族・親族」「友人」が多くなっている。
- 身近な人や知り合い同士の中で相談相手（窓口）となってもらい、そこから相談窓口、相談機関等につなげていきたい。

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- まわりの人の話を聴き、（良い意味で）おせっかいな人が増えるまち
- 「人と人」がつながるまち ○住民みんなが「ほっとけんな～」

■住民や地域のやくわり

- 地域みんなで気にかけてあう。
- 困りごとを抱える人がいれば、気にかけてあげる。
- 放っておけないと思ったら専門機関につなぐ（紹介する）。

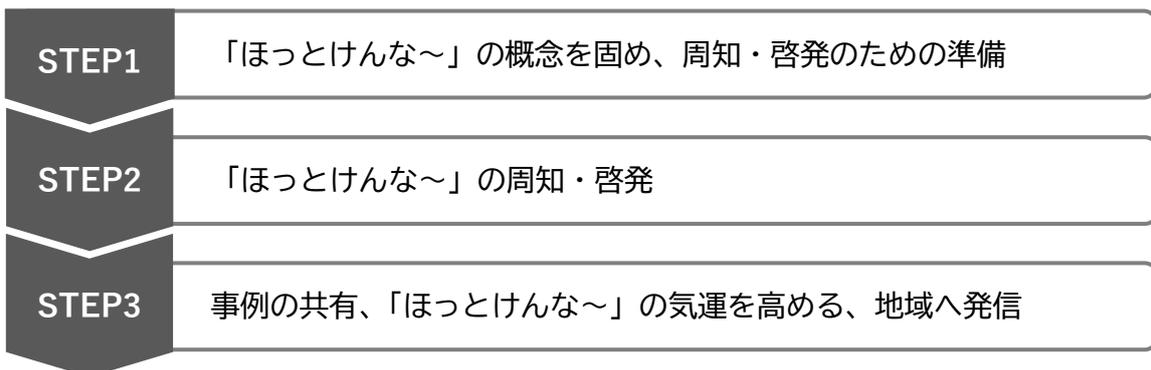
■行政や社協のすべきこと

- 広報、ホームページにより、専門機関等を情報発信。
- 広報、ホームページにより「ほっとけんな～」からつながり解決した事例を地域の人々へ情報発信。

■取組地域の範囲



■取組の道すじ





みんなの相談室

各機関の連携・ネットワークづくり

■取組の具体的な内容

- ネットワーク=みんなの相談室
- 各機関の相談員等や住民もこの相談室を活用する

■プロジェクトが生まれた背景

- 住民の中には、複雑化・複合化する課題を抱えている人も多く、各機関の単独の支援のみでは足りず、相談員等の横のつながりを必要としている。
- 各機関の相談員等が受けた相談を他の機関につなげられるような、相談員等同士で相談しあえるネットワークがあると、どこに相談しても困りごとの解決につながる。

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 色々な方法で、気軽に相談ができる。
- 相談機関同士がつながり、どこに相談しても受け止めてもらえる。

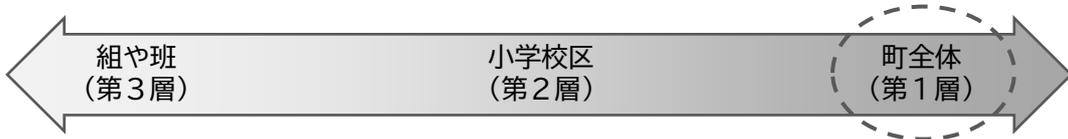
■住民や地域のやくわり

- 相談室を知る
- 分野を超えて相談員等同士がつながる
- 住民はひとりや家族で抱えず相談する

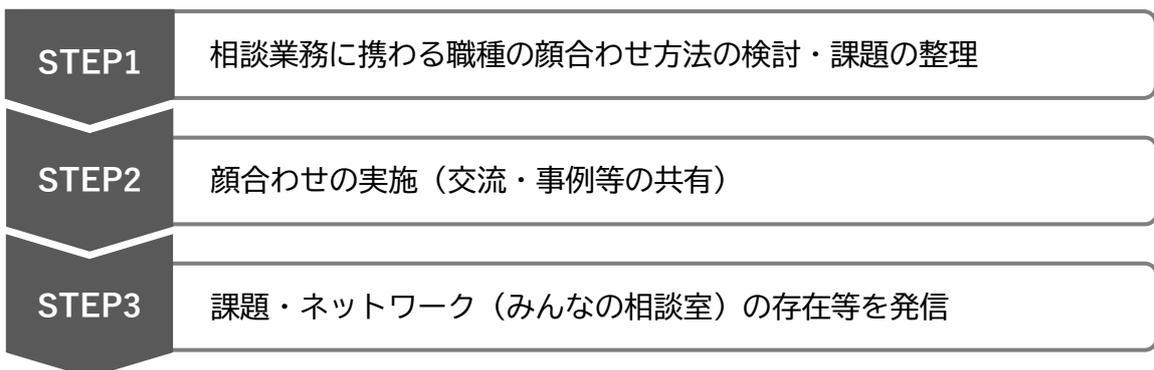
■行政や社協のすべきこと

- ネットワークの見える化
- お互いを知る・つながる機会をつくる

■取組地域の範囲

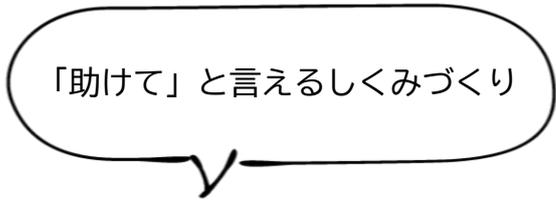


■取組の道すじ





「困った」あるある



■取組の具体的な内容

- 「困っていること」「助けて欲しいこと」をより身近に捉えてもらえるような情報を発信 → 「助けて」メニューづくり
- ICTも活用した「困った」BANK → 「困った」あるある事例集の作成

■プロジェクトが生まれた背景

- 困りごとが複雑化・複合化してきているという現状である。
- 本人自身が困っているという認識がなく、本人からの訴えがない。
- 困りごとを抱える人に対し、どう関わったらいいのかわからない。
- 措置から契約へと制度が変化する中、自ら声を上げる必要性がある。
- 「助けて」「困った」に関するコンテンツ集め。

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 色々なツールを使い、どんな些細な困りごとや「助けて」であっても発することができまち
- 色々な人が自分や周りの困りごとに気づけるまち
- 困ったときに相談できるところがわかりやすいまち

■住民や地域のやくわり

- 「困った」や「助けて」のメニューづくりへの参加
- 完成物の配架（回覧版等）

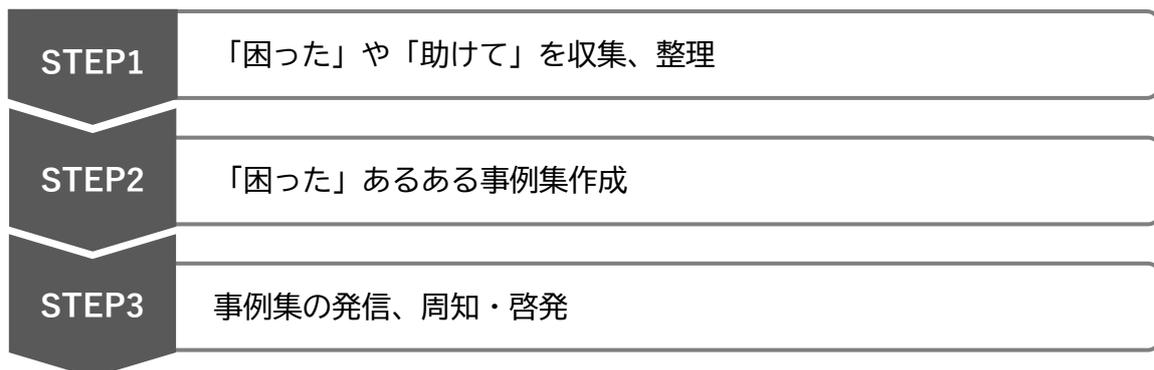
■行政や社協のすべきこと

- 集められた「困った」や「助けて」の共有・整理
- 完成物の配架
- 広報、ホームページ等による情報発信

■取組地域の範囲



■取組の道すじ



基本目標1 ほっとけん

～気になる心でつながる～

その他に出された意見の紹介

ほっとけんな～

●住民に地域福祉が根付いている

●良い意味でおせっかいなまち

●困っている人に周りが気づくことができるまち

●人に関心のあるまち

●ささいな話をできる相手が身近にいるまち

●若い人でもふくしを身近に感じることができるまち

●個々を大切にしたいまち

●相談員の人を身近に感じることができるまちにしたい

●横のつながりが強いまち

●プロジェクトとしての交流会や勉強会の開催

●福祉、介護、医療がつながっているまち

●メンバーを数年ごとに入れ替えて、多くの人に関心を持ってもらう

●ICT等の活用

みんなの相談室

「困った」あるある

●自身の困りごとに気づいていない人もいます

●困りごとがあっても、すぐに解決できるまち

●助けあえるまち

●多世代で井戸端会議ができるまち

●弱さが強さになるまち

●困りごとに関する項目があると良く、事例集等を作成してはどうか？



みんなでレストラン

子どもから高齢者まで「食」で
つながる活躍の場

■取組の具体的な内容

- 色々なタイプの地域の食堂を企画
- あらゆる世代の多様な人々も運営に携われるような場面の創出
- 一般住民も気軽に活躍（参加）できるフードドライブのしくみづくり
- 企業等が活躍（参加）できる食材等の調達のしくみづくり

■プロジェクトが生まれた背景

- 子どもから高齢者まで「食」でつながる様々な「活躍の場面」を創出したい。
- 住民や企業が気軽に参加でき、活躍できるしくみづくりが必要。

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 子どもから高齢者まで「食」を通してつながるまち
- 子どもから高齢者まで、それぞれにやくわりがあり、みんなが活躍できるまち
【食材をつくる人、料理をつくる人、食べる人等】

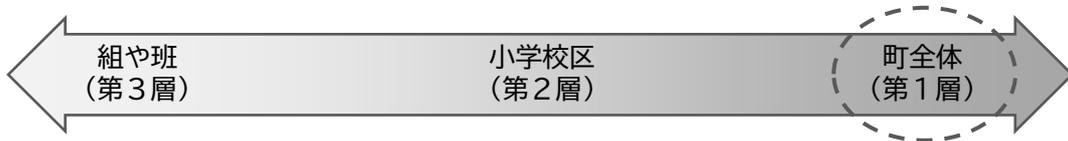
■住民や地域のやくわり

- ボランティアの誘いあい
- 場所の提供
- 食材の提供
- 参加・周知し協力者を増やす
- 食べにくる

■行政や社協のすべきこと

- 場所の提供（にじいろひろば等）
- 企業への協賛を働きかけ
- 学校との調整
- 食材調達のしくみづくり
- 広報やホームページ等でPR

■取組地域の範囲



■取組の道すじ

- STEP1** 資源の洗い出し・周知啓発の方法を検討
- STEP2** モデル的に開催
- STEP3** さらに定期的開催（例：週1日、月1日）

行

ってみんな、私のまちのふくし再発見

■取組の具体的な内容

- 見学ツアー（各地区、福祉施設、集いの場、サロン）

■プロジェクトが生まれた背景

- 地域やご近所の福祉・介護事業所を見る・知るところからはじめ、興味（関心）を持ってもらいたい。
- 地域の福祉・介護事業所やおすすめスポットを巡り、マップをつくり、情報をみんなで共有したい。
- 地域の人が訪ねることで、集いの場や施設の機能を広げたい。
- 地域の人が訪ねることで、福祉・介護事業所側もまちを知る機会としたい。

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 身近な地域やふくしに興味（関心）が高いまち、困りごとに気づけるまち
- 気づいたこと、再発見したことを自分なりに活かせるまち
- 福祉・介護事業所が地域に根ざしているまち
- プロジェクトの過程やマップの活用を通して「人や場所」とのつながりを持つまち

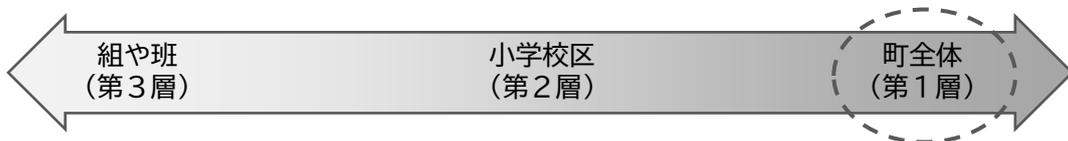
■住民や地域のやくわり

- 見学先・移動手段を考える
- 受け入れ先の調整
- 参加する

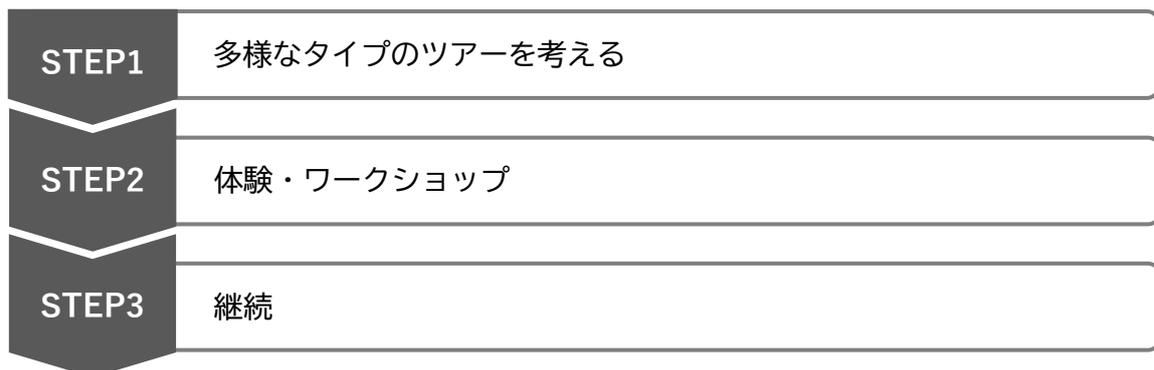
■行政や社協のすべきこと

- 広報やホームページ等でのPR
- 移動手段の調整

■取組地域の範囲

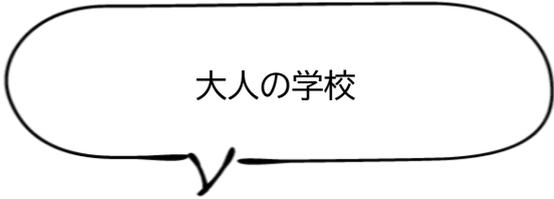


■取組の道すじ





がしうら於大学



■取組の具体的な内容

- プログラムを決め、学べるしくみをつくる

■プロジェクトが生まれた背景

<多様な交流の創出>

- ちょっとしたサロン・集まりがあると良い。
- 公園の草刈り後に子どもを招待するなど、ちょっとした交流会があると良い。

<学びで交流>

- 目的を持った方が集まりやすい
- 男性の活躍の場を広げる
- 以前の仕事のノウハウを活かす
- 高齢者の経験が若い人を助ける
- ICTの活用
- 得意なことで講師になる

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 教えあえる
- 学びあえる
- 交流の場ができる
- 生涯現役を実感できる
- 人々のつながりができる

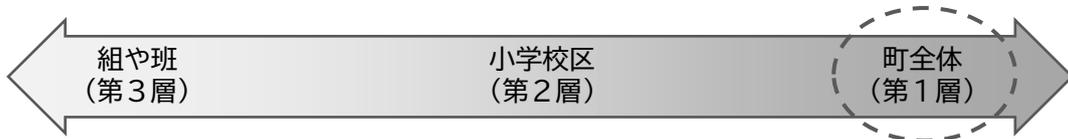
■住民や地域のやくわり

- 講座や講師を考える
- 参加する
- 学費を払う

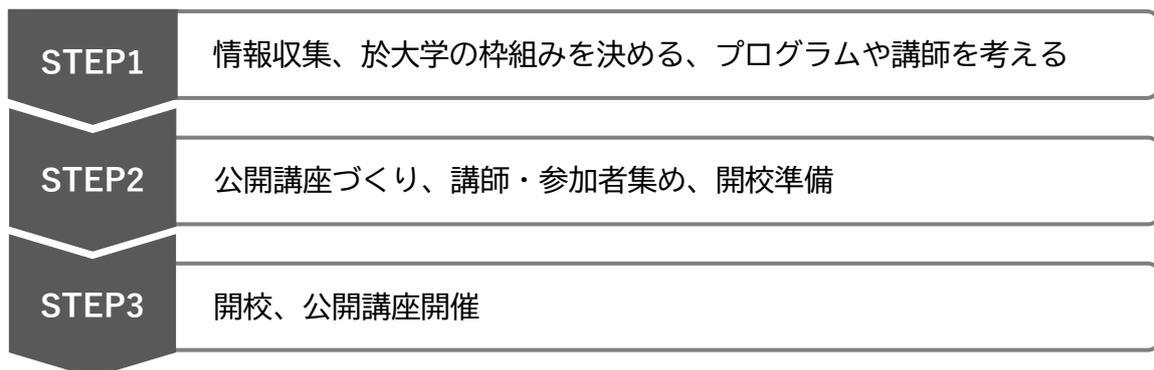
■行政や社協のすべきこと

- 場所の提供
- 広報やホームページ等でPR
- 物品の貸し出し
- 印刷物の協力

■取組地域の範囲



■取組の道すじ



基本目標2 やくわり

～だれもが持てる力を発揮する～

その他に出された意見の紹介

みんなで
レストラン

●自分たちが作った野菜・惣菜の品評会（S1グランプリ（そうざい））

●家庭菜園・漬物等のおすそ分けをする。

●生路の「とりめし」のような地区ごとの名物料理を創作し試食会（J1グランプリ（じもとめし））

●「食」を通して、人とのつながりが広がる。

●参加がしやすい雰囲気（馴染みの顔がいる、知っている人がいる）。

●今あるものを活かしたしくみづくり

●関心をもつ機会づくり・きっかけづくり→見える化していく

●うらら（バス）を活用した見学会を行う。

●見学会を通じて良いところ・悪いところの再発見をする。

●知ることや再発見を通じて、今後どうしていくのか、つなげていくのか？を考える

●施設におけるニーズの把握や発信をして、参加していく人を増やす。

●PRの方法や周知の工夫をしていくことが必要。

行ってみん、
私のまちの
ふくし再発見

ひがしうら於大学

●ひとり暮らし高齢者のパートナー探し

●卒業者が地域で活躍する、講師になる、続く…

●修了証や認定証を授与する

●学んだことを活かせる場がある

●いつでも、誰でも学べる

●毎日かがやきのあふ暮らし

●多様な交流の機会の創出

●コミュニケーションが取りやすくなる

走

れ！ちょいバス ウラ・うらら

■取組の具体的な内容

- コミュニティと協力し、地区の狭い範囲における送迎のしくみづくり。
- ルートは地区ごとのニーズに合わせて（ごみステーションごとにとまる等）
- 送迎する人が研修を受けるなど、しくみを正しく理解してもらう。
- モデル地区で試行的に行い、他の地区へ展開していく。試行的に行いながらニーズ調査も行う。

■プロジェクトが生まれた背景

- うらら（バス）では、カバーできていない場所がある
- 高齢者の買い物・通院・サロンへの送迎
- 免許返納後の移動手段
- 昼間に使えるような車両がある
- 買い物・移動に困っている人（高齢者世帯、子育て世帯等）

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 気軽に目的地へ行けるまち
- 免許がなくても安心できるまち
- やさしさを運びつながるまち（人々の交流・つながり）

■住民や地域のやくわり

- ニーズ調査（地区ごとに調査）
- 必要なルートの選択
- ルール決定
- 協力者（運転手）の確保

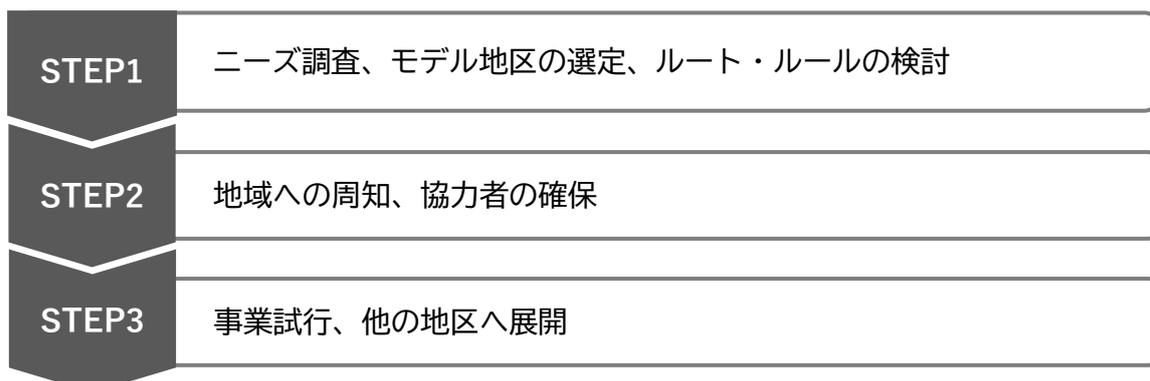
■行政や社協のすべきこと

- 車両の調整（社福法人、企業等）
- 活動時の補償の対応

■取組地域の範囲



■取組の道すじ





隣組スクラム大作戦

地域福祉視点での
防災・減災のしくみづくり

■取組の具体的な内容

- 向こう三軒両隣を気にかけてあう
- 自主防災会の充実
- 回覧板を回す単位で顔の見える関係をつくる → 「ご近所防災」につなげる

■プロジェクトが生まれた背景

- コミュニティ・自治会への未加入など、隣近所との関係の希薄さ→日ごろの見守り体制・しくみづくりを強化する。
- 隣近所で気にかけてあって、自主防災会の充実を図りたい。【おたがいさま】
- 防災・減災の視点から、隣組同士での見守り・つながりを構築する。
- 身近なところでの取組を強化する。
- 災害時の不安を抱える人が多いとアンケートからみえてきたことから、災害時にお互いに助けあえる地域づくり・しくみづくりが必要。
- 若い人たちは特に、ご近所づきあいが疎遠。

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 防災・減災のしくみづくり→コミュニティ・自治会への理解を促す→加入によるメリットの見える化→加入を促進→隣組によるささえあい・たすけあい→防災・減災、防犯につなげる
- 回覧板を回す単位で顔の見える関係をつくり、普段から「ささえあい・たすけあい」が当たり前ができるまち（おたがいさまが当たり前）
- コミュニティ・自治会を軸に防災・減災や防犯意識を高め、安心して暮らせるまち

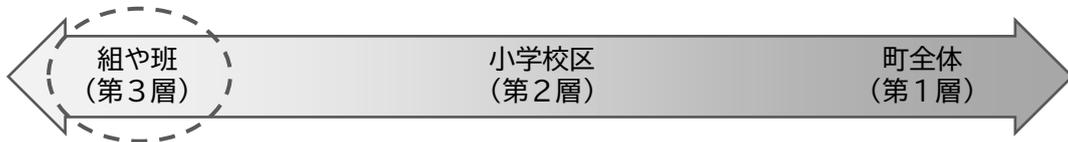
■住民や地域のやくわり

- コミュニティへの加入を促進させる
- つながりの意識を醸成する
- 「ご近所防災」の実施

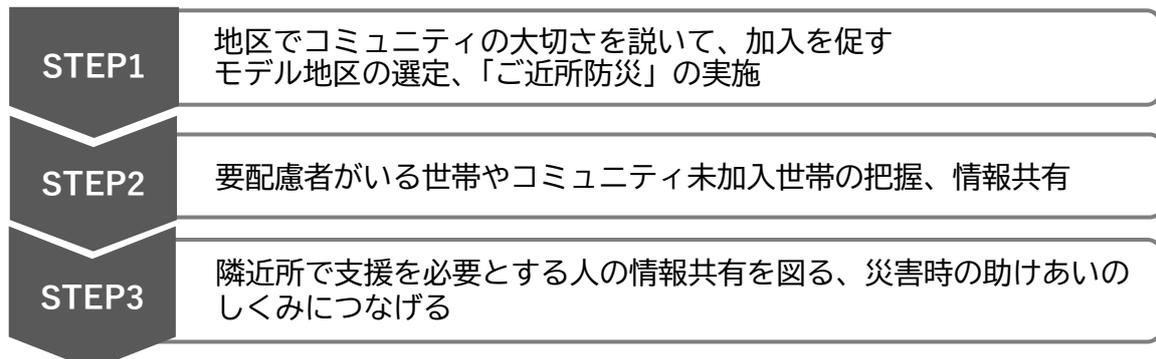
■行政や社協のすべきこと

- 自主防災会を育てる
- 物品等の提供
- 企業との協力

■取組地域の範囲



■取組の道すじ



わ

んわんパトロールひがしうら

ついで見守り、ちょっと見守り
(日ごろの見守りのしくみづくり)

■取組の具体的な内容

- 犬がパトロール隊員になり、散歩のついでに飼い主が見守り活動を行う。
- 首輪やベスト等のグッズを作成し、犬が着用し、パトロール隊員と分かるようにする。

■プロジェクトが生まれた背景

- 隣近所との会話がないう。○日常における声かけや見守り活動ができれば良い。
- 地域での人間関係が希薄化する中、子どもから高齢者までをつなぐ、日ごろの見守りのしくみづくりが必要。
- 犬の散歩のついでに、ちょっとした見守りを行う。
- ペットの糞尿被害を防ぐため、ペット・飼い主のマナー向上にもつなげたい。

■プロジェクトを通してこんなまちにしたい

- 日ごろから顔が見える関係のまち ○ペット・飼い主のマナーが良いまち
- 犬の散歩を通じた見守り体制が構築されたまち
- 地域における見守りの目を増やし、安心・安全なまちにしたい
- 「ちょっと見守り」や「ついで見守り」が多様なまち
- あいさつやちょっとした会話のあるまち

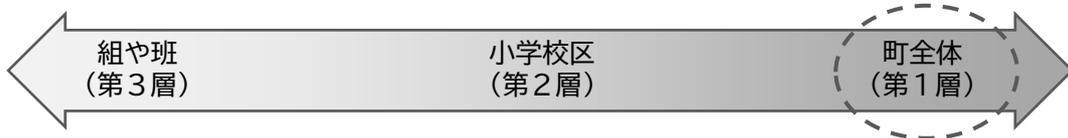
■住民や地域のやくわり

- ルール、しくみづくり
- 協力者の募集
- グッズの作成

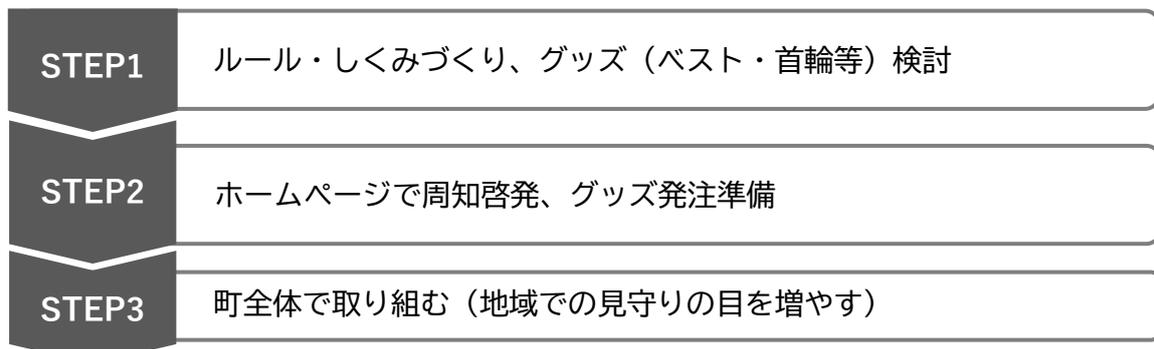
■行政や社協のすべきこと

- 広報やホームページ等への掲載
- 地域の施設へグッズの発注

■取組地域の範囲



■取組の道すじ



基本目標3 ささえあい

～お互いさまがあたりまえ～

その他に出された意見の紹介

走れ！ちよいバス
ウラ・うらら

●高齢者のちょっとした買い物の手助け

●車を提供していただける組織の発見

●出かける楽しみがある
→人に会える

●外に出る機会が増える

●車を持っていなくても、社会参加ができるまち

●実態を調査し、現状を知る

●外出が楽しくなる

●隣近所との関係の希薄さが問題になっている

●ご近所づきあいがうまくいくようなくみをつくる。

●自治会の会費を納めることで、プラスになって返ってくると良い。

●日ごろの見守り体制やしくみづくりを強化する。

●ご近所とのつながりを持つことで、防犯にもつなげたい。

隣組スクラム
大作戦

わんわんパトロール
ひがしうら

●グッズ作成は地域の施設に発注する。

●獣医、ペットショップにも協力を仰ぐ。

●イベント（コンテスト等）の開催、表彰をする。

●ホームページに隊員の写真を掲載する（うちの子自慢）、コンテストもする。

●隊員の名刺を作成・配布し、コレクションにしてもらう。